

今月の



隣に伝えたい 新たな言葉と概念

【病理組織検体】

英 histopathological specimen

現在のがん遺伝子パネル検査は、次世代シーケンサー（NGS）を用いて、がんに関わる数十～数百の遺伝子を一度に網羅的に調べている。以前に比べて、調べる遺伝子の塩基数が大幅に増加したためその分、多くの核酸量が必要になった。高品質な核酸を得ることがこれまで以上に重要となってきた。切除された組織は、摘出された直後から自己融解やRNAの分解が始まる。それを阻止するため、採取後は速やかに固定液に浸漬する必要がある。速やかに固定ができない場合は、冷蔵庫で4℃以下に保管し、1時間以内、遅くとも3時間以内に固定を行う。摘出後30分以上室温に放置することは絶対に回避する。固定液の容量は、組織量に対し10倍量を用いることが望ましく、十分に固定液を浸透させるためには、適切な容器を選択することも必要である。固定液の組成は酸性や非緩衝ではなく10%中性緩衝ホルマリンを用いる。非緩衝ホルマリンを使用した場合、核酸の量・質がかなり落ちてしまい、特に100遺伝子以上の全エクソン領域を調べるようなパネルの場合の成功率は低下する可能性があるので使用は控えるべきである。固定時間についてはゲノム診療用病理組織検体取り扱い規程において6～48時間が推奨されているが、がん遺伝子パネル検査の種類によっては72時間まで認められている。正確な検査のために臨床医、病理医、病理検査技師、他のメディカルスタッフがよく話し合い、作業工程での様々な問題点を共有しながら協力していく必要がある。

【参考】

- 1) 雨宮健司. 高品質の核酸を得るための病理標本作製の実際. Histo-Logic Japan 2021 : 49(1) : 10-13
- 2) ゲノム研究用・診療用病理組織検体 取り扱い規程
一般社団法人 日本病理学会
Accessed Apr.8,2022 at,<https://genome.pathology.or.jp/saishubui/index.html>

(国立病院機構東京医療センター 臨床検査科 山本伸晃)
本誌85pに記載